

カルメル

霊性センターニュース



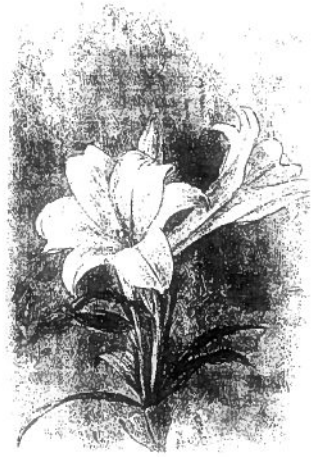
2015年10月

313号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
東京	20
京都	26
名古屋	30
北陸	32
諸所の企画案内	35
年間購読(郵送)のご案内	46
編集後記	47

心の泉





第二卷

第十一章 イエスの十字架を愛する人は少ない

4 とるに足りないしもべ

他人に高く買われている自分の長所も大したことだと思わず、私は無益なしもべだと心の底から思わなければならない。心理であるイエスも「あなたたちに命じられたことをすべて果たしてから、〈私はとるに足りないしもべです〉、と言え」(ルカ 17・10)と言われたのである。そうすれば、ほんとうに心の貧しい者、すべてを脱ぎ捨てた者となり、預言者と共に「今や私は孤独な貧しい者となった」(詩編 25・16)とすることができる。自分と自分のすべてを捨てて、末席に座ることができる人ほど、富んでいる人、自由な人、力のある人はいない。

第十二章 聖なる十字架の栄光ある道

1 自分を捨てる

「自分を捨て、自分の十字架を担ってイエスに従え」(マタイ 16・24、ルカ 9・23)というみことばを、多くの人是非常に困難なことだと思っている。しかし人々にとって、「呪われた者よ、私から離れて永遠の火に行け！」(マタイ 25・41)という最後の判決を聞くのは、さらに辛いことであろう。十字架を担えというみことばを喜んで聞き入れて実行する人は、その時になって、永遠の滅びの宣告を聞く恐れがない。十字架のしるしは、主が審判に来られる時、天にあらわれるであろう。その時、生きている間に十字架のキリストの模範にならった十字架のしもべたちは、審判者であるキリストに、大いなる信頼を持って近づくであろう。



聖テレジア生誕 500 年

終わりとこれから - 10月 -

主よ

あなたの行かれるところなら

どこへでも行きます

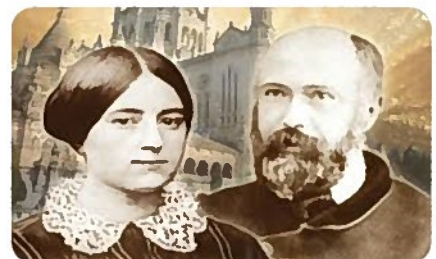
～聖テレジア～

10月 15 日の聖テレジアの祝日で、テレジア生誕 500 年祭も終わりととなります。しかし、この「おわり」をこれからの「はじまり」としたいものです。生ける命の泉に到達するまで決してあきらめてはいけないとテレジアはわたしたちを導き続けます。「すべての霊的な人々の母」テレジアは混迷の 21 世紀を行くわたしたち一人ひとりを今後ますます見守り導いてくださることでしょう。生誕 500 年に受けたさまざまな恵みが、これから一人ひとりのうちに芽生え、日々育ち、見事な開花のときを迎えますように。

わたしたちの日々の生活には様々な出来事、問題、困難があります。人生の幾つもの山や谷を越えても、「主はいつもわたしとともに歩んでくださいます」。「主よ、あなたの行くところへはどこへでも行きます！」。

10 月 18 日教皇フランシスコは全世界の司教会議で家庭についてのシノドス開催中に、ルイとゼリー・マルタン夫妻をローマで列聖されます。「現代のもっとも偉大な聖人」と呼ばれるテレーズの両親です。しかし聖人の両親としての列聖ではありません。夫婦として聖性を認められ列聖されるのは教会史上世界ではじめてのことです。現代の家庭の様々な困難の中でルイとゼリーが助けてくださいますように。

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ



人を赦す (23)

くのり
九里 彰

「私の心の中に住んでいる罪」とパウロは言う。それは、だれの心の中にも現存する。いつまでも後を絶たない学校での「いじめ」などもその良い例であろう。先生の前では優等生、大人の前ではいい子、しかし、陰では仲間を操り、弱い者いじめをして、楽しんでいる。家庭でも会社でも、自分の欲求不満のはけ口として、人をいじめる。家庭内暴力、幼児虐待も西欧並みとなってきた。またセクハラ、パワハラ、マタハラと、ハラハラととどまるところがない。

これが進めば、毎日の新聞の三面記事となっていく。三面記事は決して他人事ではない。それらの事件はすべて、私たちの心の中にそっくりそのままあるのである。日頃、虫一匹も殺せないような人が、人を傷つけ、殺してしまうことがある。「魔が差した」という表現があるが、その時、悪魔がその人の心の中に入り込み、悪魔のようになってしまうのである。

日中戦争において、残虐行為を行った人々は、戦後、まったく普通の人として生涯を送った。多くの人々は、その苦しみを死ぬ直前まで、家族にも話せぬまま、引きづっていた。ある方のお話である。

ある日、斥候に出ていた戦友が敵に惨殺された。鼻はそがれ、局所をえぐられ、見るも無残な状態で発見された。八路軍が村人の中にまぎれこんでいた可能性もある。隊長の命令一下、全員で村を襲い、老若男女、人だけでなく動物も、息するものはすべて殺戮し尽したという。前日まで、村人たちとは平和的に和やかに交わっていたにもかかわらず、である。中国の人々は、日本兵が来ると、「鬼が来る、鬼が来る」と言って、逃げ去ったそうであるが、さもありませんというところである。しかし、このようなことは、ベトナム戦争でも起きていたし、戦争が起これば、どこの国の軍隊も普通に平気でやっているのである。

「やったらやり返す」。敵への憎悪が、あらゆる残虐行為を正当化する。前線では、正常の神経では生きていけないであろう。全員が集団発狂するようなものかもしれない。平気で人を殺し、おみやげとして耳など死体の一部を切り取る。太平洋戦争末期、米軍兵士が、よくやっていたそうである。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (95)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

ピンの罪

ドゥルエロ（アビラ）でのカルメル会改革の最初の日々に、それは起きました。1568年の冬のことでしょう。アントニオ（エレディア）神父は、近くの村々に福音を伝えるために出かけねばなりませんでした。雪が驚くほどたくさん降りました。人々はロバを借りて移動しなければなりませんでした。ヨハネ修士は、兄弟（訳注：アントニオ神父のこと）が干し草で一杯の、言わば一種の電気毛布のような鞍袋に足を入れるのを手伝いました。そして安全のために修道服を、頭の大きなピンで留めようとしてしました。

ピンは、まっすぐに修道服と「幸いなる老人」の足に刺さり、老人は金切声をあげました。

ヨハネ修士は、まったく穏やかに、顔色変えずにこう言いました。

「黙って、神父さま。こうすればもっとよく留まりますよ」。

アントニオ神父は、少し不平を言いましたが、ロバを急ぎ立て、多くの雪で少し目を眩ませられながら、速足で出かけました。

午後、アントニオ神父は、使徒職の一日を終えて幸せ一杯でもどって来ました。アントニオ神父は、非常に上手な説教家でした。夜、簡単な夕食というか質素な軽食を取った後、アントニオ神父はたずねました。

「ヨハネ修士、今日気づいた罪というか過ちを教えてください」。

ヨハネ修士は立ち上がり、軽く会釈し、言いました。

「アントニオ神父、あなたは、今朝、私が足にピンを突き刺したとき、不平を言いました」。

これは、聖フランシスコと彼の仲間のために、良いこぼれ話でしょう。



「神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない」(マルコ 10, 15)。

イエスが、ガリラヤでの神の国の宣教活動を終わって、エルサレム、十字架の死が待っているところへの旅の途上にあつたとき、ファリサイ派の人々はイエスを試そうとして離婚の正当性の質問をします。「夫が妻を離縁することは、律法に適っているでしょうか」。こう尋ねている人たちは、モーセ、つまり律法が離縁状を書いて離縁することを許していることを知っています。しかし、イエスは、モーセの権威、その神の律法を解釈する権威を超越して、ファリサイ人たちには「無視して」と見えるものですが、これとは異なった判断をすると、予感しているからこそその質問です。イエスは、はっきりと答えます。「神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない」と。それが、モーゼ以前からの、天地創造の初めからの神の計画、神の愛の思し召しである、と言うのです。聖書は、人間の創造、男と女としての創造に、神と人類を代表とする全被造界との愛の親しい交わりの関係の反映を見えています。神は、創造で始められたこの関係に誠実であり続けます、たとえ、被造界の側からは忠実さを守り、維持できない事態に陥ったとしても、神は、その被造界を見捨てることなく、新しい可能性と展望に導き続け、神のみが知る完成、成就に至らせるのです。実に、モーゼに導かれて出エジプトを果たし、シナイ山での神との契約に始まるイスラエルの歴史は、神が、その民、無償で選び出し、花嫁と呼ばれるものとした民に対しての誠実な夫であり続ける歴史です。イスラエルが不誠実にも神に従順でなく、その結果として苦境に陥った時にも、神は、イスラエル、その花嫁を見捨てることなく、むしろ、その反逆をないことにしてではなく、かえって、逆境を凌駕することで、より深い愛の関係にイスラエルを浄化し、成熟させて行きます。この神と全人類の関係、誠実な神と不忠実な神に反逆する罪人たちの関係は、十字架上のイエスの姿に至りつきます。イエスの十字架の上の死は、実に、反逆する人類に対する神の誠実さの頂点であり、また、復活は、神が人間への誠実さの中に始めてくださる新しい生命を告げているのではありませんか。「神が結び合わせてくださったもの」、男と女の関係も、この神とイスラエル、人類の関係が反映しているに違いありません。結婚の絆の問題は、神と被造界の交わりの本質を写し出しています。人間が自分の自然的判断で神が合わせられたものを引き離す時、神の創造的な誠実な愛から引き離され、人間の赦すことを知らない浅知恵の中に閉じ込められてしまいます。男女の絆も、神の愛の広やかさの中で見るべきなのです。 ルカ 渡辺幹夫

本日の福音の若者は、永遠の命を望みました。しかし、彼は物質的な持ちものに執着しました。この人は掟を良く知っていて、忠実にそれに従い、よい生活をしていました。しかし、この人は自分の財産を犠牲にして、永遠の命を第一の目標とするつもりは全くありませんでした。イエスは、富に執着する人にとって神の国に入ることがどれほどむずかしいかを示すためのイメージとして、らくだと針の穴という比喩的な話をします。イエスは物質的な持ちものではなく、神に信頼をおくことが重要であり、財産に頼ることを捨てなければならないと言われます。

私たちはペトロが使徒たちを代表して再び語るのを聞きます。ここでは多分、ペトロは自分や仲間たちを誇りに思い、自分たちはイエスと共にいるために全てを犠牲にしてきたことをイエスに思い出させます。彼らが捨てたものは、大した物質的なものやお金ではなかったかもしれませんが、自分たちが持っていたもの、持てたかもしれないもの全てでした。後に、彼らはイエスのために自分の命を捨てました。それは人が為し得る最大の捧げものでした。彼らが受け継ぐ永遠の王国は、彼らが手放した全てのものより100倍も価値があるとキリストは約束します。キリストの為に、また福音の為に、家や兄弟、姉妹、父、母、子供たちや土地のような弟子たちが手放した具体的な犠牲についてキリストは話します。彼らは今この世では迫害を受けますが、家や兄弟、姉妹、父母、子供たち、土地の百倍もの報いを受け、そして後の世では永遠の命を得ます。

「神の救いのご計画」において、私たちが永遠の命の贈りもの得ることと救いの贈りもの得ることと間の相違を知ることは大切です。たしかに人がイエスに求めるものは永遠の命だけではありません。私たちと同様にこの青年は不適切な表現で間違った質問をしますが、正しい答えを得ます。イエスは全ての人の心をご存じで、この青年が訊ねていること、どのように神の王国を受け継ぐかということ、そしてこのようにして救いを得るのかを訊ねていることをイエスは知っていました。神の恵みは私たちがイエスに惹きつけ、私たちが完全な愛でイエスを知ることを学ぶために私たちがイエスに導きます。

しかし、このイエスの愛は要求が厳しいものです；キリスト教は要求の厳しい宗教です；人が全ての創造物と同様に自分自身をも捨ててキリストに従うように要求する宗教です。知識と生命である愛を通してイエスの仲間に加わりたいと望む人は、自分自身の命を保つことを放棄しなければなりません。神がそれを永遠に保ってくださるように神に任さなければなりません。この金持ちの青年は善い人でした、イエスは彼が更に善くなるように望まれました。それで、イエスは彼が完全になるためにしなければならないことは、持っているもの全てを犠牲にして神の前に空でなければならないと教えます。イエスの名において天の御父が、呼びかけに十分に答えてくださるように求めましょう。神の恵みが私たち全ての人の上に輝き出て、私たちの愛を神に示すことができますように。永遠の命と神の王国を得るために個人的な価値あるものを何か犠牲にする恵みを求めます。

(Sr. Paulina)

「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を奉げるために来たのである」(マルコ 10, 45)。

イエスの周りに呼び集められた弟子たちの相互関係は、イエス以前の判断、イエス抜き基準とはまったく異なる原理の上に建設されます。まず、イエスは、「あなたたちも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている」と、力による支配の現実を弟子たちに確認させ、しかし、あなたたちの間では、その逆だ、力は支配するためではなく、奉仕するためである、と断言します。この逆転を起こす起爆剤となるものは、イエス、この方の存在、その生き方のみです。「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を奉げるために来たのである」。ここで、イエスは、御自分のことを「人の子」と呼びますが、ダニエル書によれば「人の子」は、神が派遣される不思議な人物を指し、その人は、「権威、威光、王権を受けた。諸国、諸族、諸言語の民は皆、彼に仕え、彼の支配はとこしえに続き、その統治は滅びることがない」(ダニエル 7, 14)。この預言の理解には、別の預言者、イザヤの「主の苦しむ下僕」の歌を参照するべきです。「見るべき面影はなく、輝かしい風格も、好ましい容姿もない。彼は軽蔑され、人々に見捨てられ、・・・わたしの僕は、多くの人々が正しいものとされるために、彼らの罪を自ら負った。」(イザヤ 53, 10)。この「人」が、具体的に誰を指しているのか、イスラエルの民そのものなのか、あるいは、預言者エレミヤのような一個人なのか。この謎は、旧約の世界では解けていません。使徒言行録で、エチオピアの宦官が、預言者が指摘する苦しみを受ける「主の下僕」は誰のことか、とフィリッポに尋ねたとき、彼は、聖書のこの箇所から説き起こしてイエスの過ぎ越しについての福音を告げ知らせ、宦官はそれを受け入れ、洗礼を受け、主に従う共同体に迎え入れています。また、「主の下僕」は、アブラハム、モーゼを始め、神がイスラエルへの御自分の救いの計画を実現してゆく時に親しく選ばれた人たちを指しています。「下僕」とは、単に権力ある者、強い者に隷属する奴隷とは異なる次元に開かれている、つまり、人類全体に、一人一人の上への神の愛の救いの計画が実現されてゆくように執り成し、神と人々への奉仕者となる者のことです。イエスの周りに集められた新しい共同体は、イエスを信託し、相互に神の愛の計画が成就してゆくように支え合い、祈り合う者たちの共同体であり、その先頭に立つ方、中核、原動力は、十字架の上のイエスその方なのです。ルカ渡辺幹夫

今日の福音では、目の見えない道端の物乞い、バルティマイがイエスから新しい光と見識の恵みを受けてイエスの弟子になっていく様子が描かれています。バルティマイはイエスがダビデの子、メシアであることを知っていました。確かに彼はこれまでにイエスが行われた数々の奇跡について何も知りませんでした。周囲の人たちがイエスをやさしく慈しみ深い人として称賛していることに心を動かされました。この思いはイエスが本質的に人間とは違う方、神ご自身がこの世に贈ってくださった方であるという信仰の確信となりました。盲人は今彼の傍らを通り過ぎようとしている方がナザレのイエスであると知り、叫び続けました。「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と。バルティマイの単なる人に対しての信頼の思いは、神への思い、信仰に変わりました。その信仰はこの世の物質的な価値感を超越し、何事も恐れず、どんな困難の中でもくじけずに挑戦していく信仰です。彼は目が見えるようになることを懇願し、すぐ見えるようになりました。イエスは仰言いました。「あなたの信仰があなたを救った。」

盲人バルティマイのイエスへの懇願は、キリスト者の懇願の祈りのモデルです。熱い信仰、信頼のうちに主に心から願うなら、主は必ず聞き入れてくださいます。バルティマイの場合も、主は彼が物乞いをしていたときの姿をご覧になっていたでしょう。でもそのときは何事も起こりませんでした。彼自身が信仰の恵みに満たされ、イエスに自分の全てを開け渡し、自分を癒してくださいと懇願したとき、癒されて目が見えるようになり、そればかりかイエスの弟子になるという大きな恵みもいただきました。このエピソードは巡礼の旅にたとえられる、キリスト者の一生の縮図です。たとえ肉眼の視力は十分であっても、霊的な視力は不足している場合があります。霊的視力は霊魂の救いに絶対必要です。これをいただくために、主であり、師であるイエスに願いましょう、どうかわたしの霊的な視力を回復してください！と。主よ、あなたに従って生きるための健全な目をお与えください！と。バルティマイは内的な恵みによってイエスが神のみ子であることを悟り、イエスの全てを信じました。そして癒されました。同様に、イエスを信じ、イエスをいのちのパン、神のいのちを与えるために来られた世の救い主であると信じるわたしたちは、イエスが遺してくださった聖体祭儀によって大きな救いの恵みをいただきます。聖体祭儀の中でわたしたちは主イエスを賛美し、自分の心にお迎えし、人生の新しい気づきを与えていただきます。

祈りましょう、今日の神のみ言葉が、霊的に盲目である人々の心に強く響き、主キリストの力によって霊的な信仰の目が開かれ、信仰を破壊するもの全てから遠避けてくださいますように！また霊的に盲目である人々の上に神の恵みと慈しみを願いましょう。信仰のうちに主イエスのへの愛に目覚め、日々主との親しい交わりのうちに過ごすことが出来ますように！

(Sr. Paulina)

お笑い芸人又吉直樹の芥川賞受賞がちょっとした社会現象となっていて、世間は大騒ぎです。初めて書いた小説がいきなりの受賞であること、その上に、作者は名を知られている人気お笑い芸人という花やいだ話題性で、受賞作「火花」の売れ行きは、驚異的記録的といわれます。又吉氏は、不況久しい本屋さんの救世主なのだそうです。「火花」初出の文芸誌「文学界」は、刊行以来の増刷ときき、まさかと驚きました。

芥川賞とか文芸誌とかの類は、私には日常生活のオアシスカ、或いは楽しいお祭りのような、云ってみれば密かな快樂なのですが、そこに加えて近頃は、テレビで見るお笑い芸人といわれる人たちにも心惹かれていて、ケータイの待ち受けが太宰治のポートレートというピース又吉には常々気をとめていました。ゆえにこの大騒ぎに気分は大いに昂揚したというわけです。

「火花」は先ずは息をもつかずに一気に読みしてしまい、もったいないことをしたと思い、暫くしてからもう一度読みました。初々しくとても真面目でまっすぐで、読み心地の素直な小説でした。

お笑い芸人の世界、漫才師の師弟の話ですが、私はこの師弟の関わりに心奪われ魅了されたのです。そして師弟ということ、その関係ということ、私自身の人生をもふり返りつつしみじみと考えめぐらし、思いめぐらしました。

小説の中では師は「師匠」と呼ばれます。「先生」ではありません。

日本語の妙というのでしょうか、師匠と先生では何かが違うようです。意味するところは大筋では同じなのですが、語感、イメージとなるとずいぶんと隔たりがあるように感じられます。また実際には職種や専門分野などでの言い習わしがあるのでしょう。一般的には「先生」というと知的な学究的なイメージをもちますが、対して「師匠」というと生活も人生も人格もすべてが絡み合い関わり合う全人的なひびきがあります。

小説の冒頭、主人公「徳永」と師匠「神谷才蔵」との出会いが描かれます。渴望の魂が一瞬にして射すくめられるように捕らえられ、引きつけられ引き寄せられ、互いにこの人こそを体験する。「そして僕は師匠の他からは学ばないと決めたのだ」と出会いが成るのです。宿命的といえるこの出会いの場面数頁を特に二度目に読んだとき、涙を覚えるほどの感動がありました。

なぜこの人だったのかと後からは説明もできるのですが、火花放つようなこの瞬間だけは、例えば主客未分といわれるような説明の届かないところで成るのではと思えてなりません。

徳永の師匠神谷才蔵は、漫才のステージ名を「あほんだら」といいます。この師匠を表すのにこれ以上に適した名はないでしょう。師匠は無防備で純真でとありますが、杵を外れ、社会規範を損なってしまうほどの強烈なもののかを放っています。命を懸けてまっしぐらに独りを生きるさまは、とても悲しくとても優しくとても滑稽です。決して好ましい姿とはいえません。はた迷惑でさえあります。多くの人が、理屈を知ることではぼ生きてゆけるのに、そこを裸で丸ごと生きるという無様な恰好悪さは「あほんだら」としか言いようがありません。弟子となった者は、師の愚かさ悲しさ至らなさの一切を我が身に負ってこそ、この師からしか授かることのできないなものかを授かるのです。師弟の至福ではないでしょうか。

さてここで、ナザレのイエズスを持ち出すのは唐突突飛でいささか気が引けます。しかし、聖書の中で弟子たちはイエズスを「先生」と呼びます。「主」と呼びます。「ラビ」もあったと思いますが、「師匠」とは呼ばないのです。

ただ、私が最も大切にしている場面の一つである、最終章復活の幕明けで、マグダラのマリアが「ラボニ」と呼びかけます。これはヘブル語と断り、「ラボニ」とは先生という意味だと注釈があります。

昔、何かの講話で「ラボニ」とは「私の偉大な方」という意味と伺い、心からうれしく納得して聖書に書き込みました。

そして実は今日、見つけたのです。「ガリラヤのイエシユー」の山浦玄嗣氏はヨハネ20-16を「ラボニとは『お師匠様』という意味である」と訳されています。(因みにマルコ11-21も「師匠」です) 万歳！です。ナザレのイエズスは「先生」ではないではないかと思っ

私たちが人類の歴史の中で、渴望の魂を引き寄せる偉大な「師匠」の方々は、(イエズスは別格として) 多少とも「あほんだら」を帯びているのではないではないか。どこかでは愚か者、異端者、はた迷惑とされながら、めっちゃめっちゃなものかを放つのではないではないか。

又吉氏は小説の中で徳永に言わせませす。
「神谷さんはやかましいほどに全身全霊で生きている」
私にはとどめのひと声にきこえました。

随想：「教正」と云うこと

昔、女性ピアニストのリサイタルを聴きに行った折、幕間の休憩時間のロビーで遠藤周作氏をお見かけした。たまたまポケットに持ち歩いていた文庫本「マリー・アントワネット」にサインを願い出た。快く応じて、そのとびらの余白に書いて頂いた二文字が、「教正」であった。あとで愛読書の「沈黙」を持ち歩いていたら良かったなどと考えた当時のことが懐かしく思い出される。

遠藤周作の作品との出会いは、胃がんの手術を受けて入院中の母の隣で、付き添いベットで読んだエッセイ集「冬の優しさ」であったと思う。深くこころに響くものを感じた。七十歳を過ぎた母の初めての手術が、肉親との別れとなるのではと恐れていたからかも知れない。その母は、看護婦さんから「頑張ってくださいね～」と励まされると、「どう頑張れと云うの？」と答えては、彼女たちを困らせていた。そして驚くほどの回復力で早期に退院した。何も心配することは無かったのである。

凝り性の私は、それから遠藤周作の純文学作品、随筆、文芸評論、ユーモア小説、童話に加えて、氏が影響を受けた書籍まで枝を広げ読みあさった。近所の書店や現場の帰りに立ち寄る書店で探している本が無い時などは、神保町の古本屋まで足を伸ばし、次第に仕事場の書棚は彼の本で埋まっていった……。

氏が帰天された1996年の秋、四谷の聖イグナチオ教会の外は、彼の死を悼む人びとの葬列が続いた。私も献花を供えて外堀の堤に立って遠くから棺を見送った。

その後、順子夫人のご希望と聞いていたが、上野毛教会で奥村一郎師の司式によって「追悼ミサ」が厳かに執り行われた。そのミサを待つ聖堂内には、遠藤周作の母君である郁さまの肉声録音テープの賛美歌が静かに流れていた。千載一遇の機会だと意を決して、長いあいだ私の中で解せずにしてあった「教正」の意味を順子夫人にお尋ねした。「遠藤はサインを求められると、よくその言葉を書いていたようです。“自分は間違いを犯すので、正しいことを教えて下さい”と云う意味を込めていたようです。」このお話を傍らで聴いて居られた奥村師が「ああ～、そう云う言葉が在ったんですね。」と呟かれた。今でもそうした出来事が走馬灯のように甦って来る。

次に取り上げる言葉は、遠藤周作が作品の登場人物に語らせているものだ。

「日本人の信者たちの、外見だけで人を判断したり、形式だけで他人を評価したり、そしていつも自分を正しいと思っている態度が嫌いでした。」「影法師」

「“強情、無情な性格”はいわば後ろ盾があればこそ見せることが出来るのであって、こういう性格の人間は孤立すると急に弱気になるものだ。」「イエスの生涯」

「自分の考えだけが何時も正しいと信じている者、自分の思想や行動が決して間違っていないと信じている者、そしてそのために周りへの影響や迷惑に気づかぬ者、そのために他人を不幸にしているのに無頓着な者、それを“善魔”という。」「父親」

「俺はいつも考えるのだが、人間には“善魔”というものがある。」「父親」 「人は愛よりも憎しみによって結ばれる。人間の連帯は愛ではなく共通の敵を作ることによって可能になる。」「深い河」 「人間のやる所業には絶対に正しいと言えることはない。逆にどんな悪行にも救いの種がひそんでいる。何ごとも善と悪とが背中あわせになっていて、それを刀で割ったように分けてはならぬ。分別してはならぬ。」「深い河」
これらは又、人間の性を冷徹に見透かす作者の思いが込められた表現とも云える。

人は生まれ持った資質と、その後の成長過程で形成される性格と、両者を合わせ持っている。それが、気付かぬうちに“善魔”となって通さざるを得ない場合や、如何なる事態においても謙虚さを保たなければならぬ場合などに表出する。それらの行動には自ずとその人の持つ人格が顕れてくるように思う。私たちを取り巻く環境は、ともすると早計に結果を求めたがる傾向が強くなって来ているように感ずる。自分の主義主張を通すためなら成り振り構わず突き進んで行く。あげくの果て事態が悪化すると、自らの責任を回避する風潮が支配しているかに見える。

「教正」と“善魔”は対句をなすもののように思えてならない。

遠藤周作氏との邂逅は、私のところに消し去ることのできぬ思い出を刻んだ。

“自分は間違いを犯すので、正しいことを教えて下さい。”

その思いが、ミサに与る私のところに問いかけてくる……………。

天野 郁生

いのちの言葉 10月

互いに愛し合うならば、それによって
あなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。

(ヨハネ13・35)

初代キリスト者の生活を魅力的に描いている書物の中に、「キリスト者たちは、その住居や、話し方、服装からは、他の人と区別することができない。また、彼ら特有の言語や、生活様式、居住地を持っているわけでもない」と書かれています。彼らは、これらの点においては、周囲の人たちと変わるところのない、ごく普通の人たちでした。その一方で、彼らは社会の魂となり、社会に大きな影響を及ぼす秘訣を自らの内に秘めていたのです。(『ディオネトへの手紙』5-6章参照)。

その秘訣とは、イエスが亡くなる前に、弟子たちに残していったものでした。イスラエルの賢者たちのように、また父親が子どもに対してするように、イエスも知恵ある師として、人が賢明に生きていくための術(すべ)を自らの遺産として残していきました。それは、人間が相互に愛し合うという生き方です。これこそイエスの究極の願いであり、遺言でした。

イエスは、この相互愛がご自分の弟子のアイデンティティーとなることを望まれました。互いに愛し合っている彼らの姿を見て、人々が、彼らをイエスの弟子だと認識できるようにです。

「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

聖ヨハネ・パウロ二世教皇は、「教会の歴史は、聖性の歴史である」と書いておられます。しかし、「そこにはキリスト教の証とは相反するような出来事も少なからずありました」(大勅書「受肉の秘儀」11)。キリスト者たちは、イエスの名により次々と戦争を引き起こし、今日に至ってもまだ分裂が続いています。キリスト者というと、未だに十字軍と結び付けて考える人すらいます。また、キリスト者は、科学の進歩とは相容れぬ、時代遅れの道徳をとことん守ろうとする人たちだと考えている人もいます。

しかし、エルサレムで生まれた初代のキリスト者たちに関しては、そうではありませんでした。周囲の人たちは、彼らの間にある富の共有に目を見張り、皆が心を一つにして、「喜びと真心をもって」(使徒言行録2・46参照)生きている姿に感心していました。「民衆は彼らを称賛していた。そして、多くの男女が主を信じ、その数はますます増えていった」(使徒言行録5・13-14参照)と、使徒言行録には記されています。キリスト者は、今日にあっても、愛ゆえに他の人たちと区別できるような存在になれないものでしょうか。

「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

このみ言葉は、私たちが、キリストを宣べ伝えるにあたり、その最も根本的な部分に目を向けさせてくれます。宣教は、人に信仰を押し付けることでもなければ、回心という見返りを考えて貧しい人に手を差し伸べることでもありません。また、倫理的な価値観の擁護や、不正、戦争などに対する決然とした態度は、キリスト者に求められることであり、それを回避して通ることはできませんが、かと言って、そこだけに集中することが宣教なのでもありません。

キリスト教の宣教は、まず何よりも、キリストの弟子である私たち一人ひとりが、自らの生活の証を通して行なっていくものです。まさに、「現代人は、教師の言うことよりも、あかしをする人の言葉を喜んで聞きます」（福音宣教 41）。教会に反感を抱いている人でも、病人や貧しい人のために生涯を捧げている人の模範には心を打たれ、自分もそのような人々に近づいて援助の手を差し伸べたいと、祖国を後にすることもよくあります。

しかし、イエスが、とりわけ望んでおられるのは、共同体が一つになって、福音の真理を証ししていくことです。イエスがもたらした生活は、ほんとうに新しい社会を生み出せること、そして互いに本物の兄弟的愛で結ばれ、みな助け合い、仕え合い、事欠く人やより弱い立場にある人々に注意を注いでいく、それを目に見える形で示していくようイエスは私たちに求めておられます。

イエスが命がけて勝ち取ってくださった兄弟愛、「一致」をもし私たちの間で生きるなら、私たちは、周囲に希望と新たな命の種を蒔くことができるでしょう。たとえば共同住宅に住む一つの家族が、日々新たな心で、具体的に相互の愛を生きようと決心するなら、互いに無関心を装っている近所の人たちにひと筋の光を投げかけることができるでしょう。また、職場など自分が置かれている環境の中で、二人、三人が同じ志で結ばれて生き、彼らが、利益のためだけでなく、より弱い人への奉仕として仕事を行なうなら、まるで生きた細胞のように、周囲に兄弟愛や協力の輪を生み出していかれるでしょう。

ローマ帝国にあって、初代のキリスト者たちは、このような生き方をしながら、社会にキリスト教の新しさをもたらし、当時の社会を変えていったのです。

私たちも、現代における「初代のキリスト者」です。私たちも彼らのように互いに赦し合い、相手を絶えず新しい目で眺め、助け合いながら日々を生きていくよう招かれています。言い換えるなら、イエスのように真剣に「愛する」生き方に招かれています。私たちの間にこのイエスの存在があるなら、多くの人がこの神聖な愛にひきつけられ、私たちと共に歩むようになるでしょう。

ファビオ・チャルディ神父

*2015年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

糸巻き棒からペンへ (2)

—現代人のためのイエスの聖テレジアの教え—

エドゥアルド・サンス・デ・ミゲル OCD



非常に早くから、スペインやオーストリアやフランスやベルギーやポーランドなどの王侯や司教や諸機関は、聖座にテレジアの列聖を願う方向に向かいました。しかしまた、著名な著者によって論駁されていた彼女の著作を告発する動きもありました。1614年、教皇は列福の教令の中で、こう断言しています。「彼女の思い出は、すべてのキリスト教国において花開いています。したがって、当該の（跣足カルメル）修道会だけでなく、親愛なる息子、スペインのカトリック王であるフェリペ王や、ほぼすべての大司教や王子や団体や大学やスペイン王の臣下は、繰り返し、私に列福の願いを謙遜に申し出てきました」。列福のお祝いのために、挿絵や本や詩が出版されましたが、ロペ・デ・ヴェガやミゲル・デ・セルヴァンテスが突出しています。列聖は、1622年、農夫聖イシドロ、ロヨラの聖イグナチオ、聖フランシスコ・ザビエル、聖フェリペ・ネリと共に、一つの式で行われました。

列福の前から、彼女の「卓越した教え」がすでに話題となっていました。そこで、執筆している姿を絵画や彫刻で表すことが始まりました。ある時は神的光線によって照らされ、ある時は聖霊によって照らされ、ある時は、学帽をかぶり、ある時は博士の象徴をもって。典礼の祈りでも、博士たちにのみ用いられていた表現が使われました。たとえば、「彼女は驚くべき学識に恵まれました。…彼女が行なったことを模倣し、彼女が教えたことを実現できるようにしてください。…こうして天上の教えによって自らを養うことができますように」。

教会博士という公の承認を彼女に与えるための数えきれないほどの嘆願に対し、ローマからの答えはいつも、“*obstat sexus*”（すなわち、「性はその妨げとなる」というものでした。しかし、1622年、公の式典において、サラマンカ大学の教授たちは、彼女の彫像を学帽と、さらに博士に相当する記章で飾りました。同大学の教授会は、1922年、スペインの諸侯が列席する中で、彼女を正式に名誉博士に指名しました。後に、パウロ6世は、1970年、教会博士の称号を彼女に贈りました。この教会博士の称号は、「神的な事柄に関する彼女の知恵と著作をもって行った教えを鑑み」、贈られたもので、彼女が最初の女性でした。彼女の教会博士宣言の後、さらに三人の女性が同じ栄誉を受けました（シエナの聖カタリナ、リジューの聖テレジア、ペンゲンの聖ヒルデガルド）が、彼女の独創性は際立っています。

九里 彰訳

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介いたします。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2015年8月14日

イエスの聖テレジア生誕500周年記念 国際聖テレジア交流会に千人の巡礼者がアビラに集結

アビラ市は、イエスの聖テレジア生誕500周年記念国際聖テレジア大会に参加するため、世界の五大陸から聖テレジア生誕の地アビラに到着した約千人の巡礼者を迎え入れました。彼らは、跣足カルメル修道会系列の司祭、修道士、修道女、並びにカルメル在世会、そして聖テレジアの霊性及びカルメルの種々のグループやムーヴメントに属している人々です。アビラに到着したグループは20ヶ国に上りました。

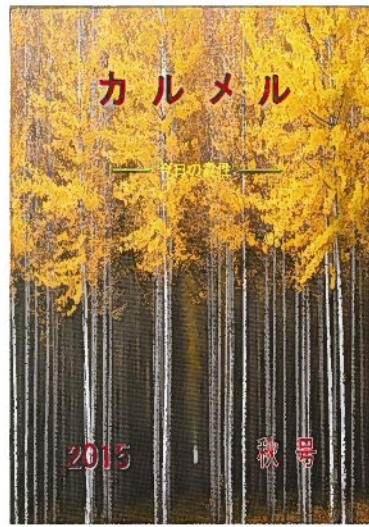
この機会は参加者に、五大陸に広がり、それぞれの社会状況と教会の現実の中でさまざまな形を取っているテレジアのカリスマの現代的な重要性と普遍性を体験させましたが、この集いの仕上げは、みなで共に行なった祈りと祝典の時でした。

この集いでは、聖テレジアのカリスマの普遍性が明らかにされ、それぞれの修道家族が他の会の直面しているさまざまな現実に近づくため、対話が行われました。毎朝、各修道会のカリスマの明確な特徴や、各国で福音宣教にどのように向き合っているかについて対話する“分かち合いのテーブル”が設けられました。

この聖テレジア国際交流会には、跣足カルメル修道会から 副総長のアグスティ・ボレル神父をはじめ、総長顧問のダニエル・チョウニング神父、イベリア管区管区長のみゲル・マルケス神父、ポルトガル管区管区長のホアキム・テイヘラ神父、跣足カルメル修道会系列の会の総長たちが参加されました。



「カルメル」
今日の霊性・秋号
四旬節講話特集号



2015 秋 No.358

カルメル 2015 特集号

「現代における預言者 聖テレジア」
一聖女のカルスマを次世代に伝える一

神が慈しまれた道 (7)	私には名前が二つあります (46)	西行と芭蕉の霊性 ——命の声調に聴く (9)	歴代教皇の寸描 (2)	聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて ——教会のために聖霊にとらえられて マリー・エウジェニス 編・訳 伊徒信子 (12)	風に吹かれて (5) ——知識と体験	修道生活の改革 (3) ——アピラの聖テレジアの理想	イエスの聖テレサと男子跣足カルメル修道会についての考察 (3)	エディット・シュタインとアピラの聖テレサが口にしたもの (2)	魂の城	須沢かおり	九里 彰	松田浩一	原 造	23	16	9	3	● 目次 ●	《今年の特集 聖テレジアと奉獻生活》	● 目次 ●	キリスト者一致に対するテレジア的預言 松田浩一 2	アピラの聖テレサの霊的母性 片山はるひ 13	修道生活の改革者 聖テレジア 九里 彰 26	二十一世紀のために生まれた聖テレジア 中川博道 39	テレジアに学ぶ宣教の精神 今泉 健 53
--------------	-------------------	---------------------------	-------------	---	-----------------------	-------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	-----	-------	------	------	-----	----	----	---	---	--------	--------------------	--------	---------------------------	------------------------	------------------------	----------------------------	----------------------

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円（+送料140円）】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計 3,000円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～2016年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 日帰り黙想会 13時30分 (※10時)～16時

[聖人たちを支えた神のことば] 福田正範神父

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

2015年

10/30 (金)、11/5 (木)、11/20 (金)、
12/3 (木)、12/18 (金)

2016年

1/15 (金)、1/28 (木)、2/12 (金)、2/25 (木)、3/11 (金)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

※企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。
午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

2. 奉献生活者のための黙想会

10月13日 (火) 18時～10月22日 (木) 朝 福田正範神父

12月27日 (日) 18時～2016年1月5日 (火) 朝 福田正範神父

3. 青年黙想会(男女) 福田正範神父・カルメル会士

テーマ「キリスト者の奉献」

11月13日 (金) 16時～15日 (日) 16時

4. 召命黙想会(男女)

~~9月25日(金)16時～27日(日)16時~~ (中止になりました)

5. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

1 1月 6日(金) 20時～ 8日(日) 16時 「いのりの道」

6. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2015年12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

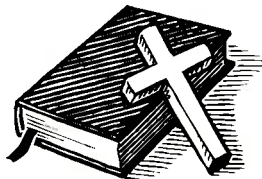
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2016年 3月24日(木)夕食～27日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

New ! 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。
間違いを避けるためなるべく、FAX・はがき・Eメールで連絡して頂ければ幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院 (黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

*****日帰り黙想会*****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことは☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

* 企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時~ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：	10月30日(金)	午後1時30分~午後4時
	11月5日(木)	〃
	11月20日(金)	〃
	12月3日(木)	〃



お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール：

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル青年黙想会

キリスト者の奉獻



- 日時 : 11月13日(金) 16時 ~ 15日(日) 16時
場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
対象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)
定員 : 20名
費用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
締切 : 11月6日(金) <必着>
指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
電話: 03(5706)7355
FAX: 03(3704)1789
E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

2015年11月6日(金)20時～8日(日)15時

わたしが来たのは

羊が 命を受けるため

しかも豊かに受けるためである

ヨハネ10・10



わたしたちを探す神のまなざしに出会い、

わたしたちを探し続けられる神を迎え入れるために

しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？

- 指 導： 伊従 信子 (ノートルダム・ド・ヴィ会員)
- 持参品： 新約聖書、『弱さと神の慈しみ』伊従訳編 サンパウロ
『テレーズの約束』サンパウロ (黙想の家で購入できます、)
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想の家)
158-0091 東京都世田谷区上野毛2-14-25
Tel 03-5706-7355 Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
- 申し込み方法： FAX 03-3704・1764 または、ハガキにて



中川博道 神父様の
待望の新刊が出来ました！！

存在の根を探して

6月23日発売

●イエスとともに

天地創造、カインとアベルの物語など、聖書に記された人間の姿、そして十戒の現代的意義や主の祈り、イエスの生き方をていねいに見ていくことを通して、心の奥底での神との生きた出会いへと読者をいざなう。カルメル会での40年にわたる観想生活から生まれた本書は、カルメルの靈性に触れ、味わう入門書として最適です。

主な内容

- ・ 生きることの原点
- ・ 「聴く」という生き方の意味
- ・ 私とは誰？——自らの存在に聴き入る
- ・ 現代という荒れ野を歩む道
- ・ 生きるイエスを捜し続ける教会
- ・ 「心の深い深い、いちばんの奥底」へ



B6判・1700円+税 ISBN978-4-87232-090-9

オリエンス宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

全国のキリスト教書店、Book Web、オリエンス宗教研究所HPもご利用ください。

2015年～2016年 黙 想 会 案 内

(宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2015年 11月28日(土)～29日(日) 日常生活の中でイエスと共に生きる 中川博道 師
2016年 1月9日(土)～10日(日) 私が洗礼を受けたこと 中川博道 師

【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)

2015年 11月14日(土) 中川博道 師 12月12日(土) 渡辺幹夫 師
2016年 1月9日(土) 中川博道 師 2月13日(土) 渡辺幹夫 師
3月12日(土) 渡辺幹夫 師

・ 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

2015年
10月14日(水) 聖テレジアの過ぎ越し 渡辺幹夫 師
11月18日(水) 観想と活動 松田浩一 師
12月16日(水) 人となられた神にともなわれて 中川博道 師
2016年
1月20日(水) 主の慈しみは、新たになる 渡辺幹夫 師
2月24日(水) 生きていることの見直し 中川博道 師
3月16日(水) キリストの過ぎ越 松田浩一 師

・ 四旬節の黙想 (午後5時～午後4時)

2016年 3月5日(土)～6日(日) 中川博道 師

・ 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

2015年 12月13日(土)～12月14日(日) 松田浩一 師

・ 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

2015年 9月30日(水)～10月1日(木) 伊従信子 師

【カルメル青年の集い】 (午後5時～午後4時)

2015年 11月22日(日)～11月23日(月) 松田浩一 師

【一般のためのカルメルの霊性入門】

(午後5時～午前4時)

2015年

10月14(火)～10月15日(水)

イエスのテレサ生誕500年閉会式

松田浩一 師

【奉献生活者の黙想】

(午後5時～午前9時)

2015年 7月31日(金)～8月9日(日)

8月21日(金)～8月30日(日)

12月27日(日)～1月5日(火)

中川博道 師

松田浩一 師

松田浩一 師

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン 午後4時以降可、チェックアウト 午前11:30

12月24日(木)～12月25日(金)

【講話なし、各食事つき】



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで

お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話はなるべく、午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための靈的同伴』

— 日常のキリスト教靈性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の靈的・心的修養を目的として、靈的同伴(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的靈的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(靈的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 名

【開催日】 2015年 1月30日(金)～31日(土)

2月13日(金)～14日(土)

3月 6日(金)～ 7日(土)

5月 1日(金)～ 2日(土)

5月13日(金)～14日(土)

~~6月19日(金)～20日(土)~~

6月26日(金)～27日(土)変更

7月24日(金)～25日(土)

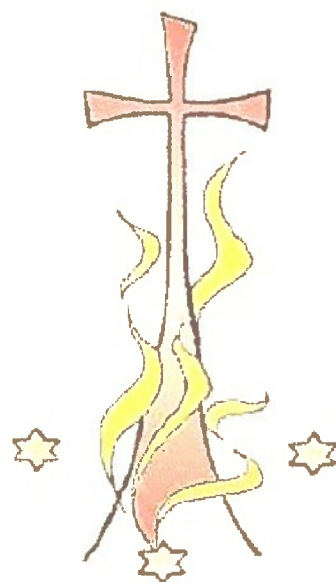
9月 4日(金)～ 5日(土)

10月 2日(金)～ 3日(土)

11月 6日(金)～ 7日(土)

12月 4日(金)～ 5日(土)

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 6,500 円

【靈的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

カルメル青年黙想会

テーマ：*神よ、あなたはどこにおられますか!!*

イエスの聖テレサ教会博士の神の慈しみ体験

テレサの映画鑑賞もあるよ!!



スピリチュアル・ディレクター：松田 浩一神父

スピリチュアル・コンパニオン：CM シスターズ

対 象：青年男女30歳まで

場 所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

費 用：6,000円（一般）、4,000円（学生）

日 時：2014年11月22日（日）受付開始17時

～23日（月）16時

問合せ・連絡先：カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

Tel 0774-32-7016

Fax 0774-32-7457

Email: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

《 名古屋一日静修 》

カルメルの霊性を生きる

—アビラの聖テレジア—



1. 日 時：11月23日（月）
「念祷の祈りとは？」
12月23日（水）
「自分を知ること」
午前10時～午後4時
場 所：カトリック日比野教会 信徒会館
(地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)
2. 指導司祭：九里 彰 神父
3. 参加費：1000円
4. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
5. プログラム
10:00 導入の祈り（聖堂）
10:20 第一講話（信徒会館）
11:30 念祷 ① 赦しの秘跡または面接
12:00 昼食（信徒会館）
12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接
13:00 第二講話
14:00 念祷 ③
14:30 ミサ（聖堂）
15:30 茶話会（信徒会館）
16:00 終了の祈り
6. 申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。
FAX/0568-62-5167
mail/seisyuu_2015@yahoo.co.jp
ハガキ/〒484-0076 犬山市橋爪一丁田1-26
「名古屋一日静修」係り

2015年度 OCDS（跣足カルメル在世会）年次黙想会

跣足カルメル在世会名古屋共同体企画

「聖テレジアとともに、カルメルの靈性に生きる」

～涼やかな森の中で、跣足カルメル在世会員と共に祈り、神を賛美する3日間～



- 1 日時 2015年10月10日（土）～10月12日（月・祝）
- 2 場所 宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想の家）
〒611-0002 宇治市木幡御蔵山（うじしこばたおぐらやま）39-12
- 3 定員 若干名（10名前後の予定。定員になり次第締め切らせていただきます。）
- 4 指導 九里彰神父様（跣足カルメル会総長代理）
- 5 参加費 6000円×2＝12000円（1泊の場合は6000円）
- 6 持ち物 ノート・筆記具・洗面具・着替え・パジャマ・薬など、個人的に必要なもの。

◎参加ご希望の方は、以下のメールかFAXでお申し込みください。

（ご住所・お名前・電話番号・メールアドレス・所属教会・参加される日をお知らせください。）

メール：ocds-nagoya2015@yahoo.co.jp FAX：058-372-6305

カルメル年次黙想会担当者 まで

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第二土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読 短い講話

14:30～ベネディクション 聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう。

カルメル霊性センター



〒921 - 8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076 - 244 - 7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交渉から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい掟

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡實雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/屈辱/「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2015年予定

- K4 09/19 (土) -09/25 (金) 東京・小金井・聖霊会
N3 10/27 (火) -11/02 (月) 滋賀唐崎・ノートルダム
T2 11/17 (火) -11/23 (月) 兵庫西宮・トラピスチヌ
K5 12/12 (土) -12/18 (金) 東京・小金井・聖霊会

2016年予定

- N1 02/26 (金) -03/03 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
N2 05/07 (土) -05/13 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム
K1 06/13 (月) -06/19 (日) 東京・小金井・聖霊会
K2 10/01 (土) -10/07 (金) 東京・小金井・聖霊会
N3 10/20 (木) -10/26 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム
K3 12/05 (月) -12/11 (日) 東京・小金井・聖霊会

真命山 2015年 — 祈りの集いのご案内

祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間のテーマ

「イエス、マリア、ヨセフが祈られた詩編」



- 1月 8日 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に
適う人にあれ。」（ルカ 2,14）詩篇 1. 34. 117. 19. 150
- 2月 12日 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を
信じなさい（マルコ 1,15）詩編 51. 21
- 3月 12日 過越祭のハレルの詩編：113.117.136
- 4月 9日 復活祭の詩編：2.110.118
- 5月 14日 詩編 45.89（ルカ 2,46-55）
- 6月 11日 詩編 145.146.148
- 7月 9日 詩編 126.130
- 8月 休み
- 9月 10日 詩編 23
- 10月 8日 詩編 42
- 11月 12日 詩編 137.147.150
- 12月 10日 詩編 来られる主を迎えて：72.96（ルカ 1,68）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下(予定)の土曜日、
9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラムの詳細は別途公表。

冬学期: 10/10, 10/17, 10/24, 10/31, 11/7,
11/14, 11/21, 12/5, 12/19,
2016年 1/9, 1/16, 1/23, 1/30, 2/6

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体。12月30日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、4月28日、8月11日、12月22日は休み。8月25日は、クルトゥルハイム聖堂
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月4日は休み。
・「水曜日ミサ後の黙想」18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、12月30日は休み。
・「通う霊操」8月22日(土)～8月30日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂
・「黙想会」
11月28日(土)10時～29日(日)14時(上石神井)。
1泊2日。7,000円程度。事前申込み要。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
10月10日、11月7日、12月5日、2016年1月9日、2月13日、3月5日
・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。但し祝日、4月27、30日、7月30日、8月全体、11月2日、12月24、28、31日、2016年3月24日は休み。

●坐禅接心

10月31日(土)20時20分～11月3日(火)8時30分
秋川神冥窟。1泊2、400円(+暖房費)程度。事前申込み要。
[関西]5月9日(土)13時30分～10日(日)15時、7月30日(木)17時45分～8月5日(水)15時。

●アガベ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
10月25日(日)、会員未加入の方にもオープン集い。
13時30分から。岐部ホール4階、404。

●クリスマス会

12月12日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階、404。
事前申し込み要。

●クリスマスのミサ

12月23日(水)14時～16時。上智大学内クルトゥルハイム聖堂(80人限定)。

●クリスマスの黙想

12月25日(金)18時55分～20時40分。聖イグナチオ教会マリア中聖堂(予定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2015年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

イエス(上智大学内クトゥルハイム2階)

10/02 教会の成立と意味— イエスを中心に集う

10/03-04 ●黙想会(東村山)

10/09 人間としてのイエス— 新しい人間像の基礎づけ

10/16 御子としてのイエス— イエスの神との関係

10/23 父と子と聖霊— 神の生命に与る

10/30 信仰の決断— 支えられて生きる

11/06 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧

11/13 自己実現と神の意志— 生き方の規範

11/20 人間の弱さ— 罪とは何か

11/27 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける

11/28-29 ●黙想会(上石神井)

12/04 愛の心— キリスト教の本質

12/11 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う

12/12 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404.要申し込み)

12/18 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む

12/23 ◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クトゥルハイム2階、80人限定)

12/25 ●クリスマスの黙想(18時55分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)

01/08 霊の動き— 福音による生き方

01/15 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰

01/22 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方

01/29 結婚と独身— 愛の道

02/05 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている

02/12 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄与して働く

02/19 人間の苦悩— 悪とは何のためか

02/26 死— その受け入れと克服

キリスト教理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[根本的態度]

10/3-4 ●黙想会(東村山)

10/06 個人の道— 自己の課題と聖霊の導き

10/20 対人関係と友愛— 恵みである他者

11/17 身体と生命— 性と倫理

11/28-29 ●黙想会(上石神井)

[日常生活]

12/01 家庭と独身生活— 与えられた招きの発見

12/12 ■クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4F、要申し込み)

12/15 仕事と祝い— 能力の活性化と人生の実り

12/23 ■クリスマスのミサ(14時、上智大学内クトゥルハイム2F、80人限定)

12/25 ●クリスマスの黙想(18時55分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)

12/29 ○休み

01/05 困難と苦しみ— 謙遜な自己奉獻と神への信頼

01/19 教会生活とミサ— 「キリストの体」の神秘

02/02 秘跡の恵み— たえざる刷新と神のいのちの深まり

[信仰の実現]

02/16 祈りの本質と靈的読書— キリストとの心の交流

03/01 創造的靈性— 活動における観想

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、
キリスト者としての霊性を養うための
講話と沈黙の祈りで構成された集いです



東京

- 10月17日(土)「テレーズの両親の列聖」
- 11月21日(土)「マリアの奉献」
- 12月19日(土)「エマヌエル」

午後2時 ~ 午後5時30分位まで

講話・祈り・質問・分かち合い

講話 伊従信子

参加費 200円

お申し込み・問い合わせ：ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

京都

10月3日 13時半~15時 京都NDV 担当：伊従信子
『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』聖母の騎士聖母文庫
6章 神の愛を信じて

10月6日 13時半~15時半 河原町カトリック会館3階
* 『いのりの道をゆく』 担当：伊従信子
* 祈り：「都の聖母」聖堂にて 15~15時半

10月24日(土) 14時~15時半 河原町カトリック会館7F
祈り：「都の聖母」聖堂にて15時半~16時 担当 中山真里

10月31(土) 13時半~15時 京都NDV
主日の福音の分かち合い 担当 中山真里

~~~~~

京都NDV お問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ

〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4

TEL・FAX(075-462-3525)

email : [ndvkyoto@gmail.com](mailto:ndvkyoto@gmail.com)

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・・開始日の8日前で締切ります

| コース         | 日時<指導者>                         | 指導者  | 開催場所                      | 申込み                               |
|-------------|---------------------------------|------|---------------------------|-----------------------------------|
| サダナ I       | 10/23(金)17:30-<br>26(月)16:00    | Fr植栗 | 女子御受難会修道院<br>(宝塚市)        | 大倉元子<br>Tel<br>078-811-2706       |
| 入門B         | 11/8(日)<br>9:30-17:00           | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 若山美知子※<br>Tel&Fax<br>03-5802-3844 |
| サダナ I       | 11/20(金)17:30-<br>11/23(月)15:00 | Fr植栗 | 浜松(旧)聖ベルナルド<br>修道院(浜松市)   | 同上                                |
| フォロー<br>アップ | 12/6(日)<br>9:30-17:00           | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 同上                                |
| 入門C         | 2016/1/17(日)<br>9:30-17:00      | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 同上                                |
| サダナ I       | 2/11(木)17:30-<br>2/14(日)16:00   | Fr植栗 | 三位一体聖体宣教女会<br>東京修道院(東村山市) | 同上                                |
| フォロー<br>アップ | 2/28(日)<br>9:30-17:00           | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 同上                                |

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門 A. B. C)・・・体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II・・・Iをいっそう深める。身体・感・想像・自己史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ Iを終えた方。

◆入門 C・・・入門 Aまたは入門 Bを終えた方。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2015年 4月29日(水)～ 5月7日(木)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月26日(月)～ 11月3日(火)
- ④ 12月27日(日)～ 2016年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2015年 2月6日(金)～ 2月8日(日)
- ② 2月27日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月20日(金)～ 3月22日(日)
- ④ 6月19日(金)～ 6月21日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月27日(金)～ 11月29日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2015年 5月25日(月)～ 6月2日(火) 澤田豊成 師 (パカ会)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご  
相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

# 捧げるということ

2015年度 召命黙想会

|   | 日時               | テーマ             | 講師          |
|---|------------------|-----------------|-------------|
| 1 | 5月16日(土)～17日(日)  | 網を捨てて従う         | 山内十束師(ご受難会) |
| 2 | 9月12日(土)～13日(日)  | 人里離れたところに行く     | 山内十束師(ご受難会) |
| 3 | 11月21日(土)～22日(日) | あなたがたがパンを与えなさい  | 山内十束師(ご受難会) |
| 4 | 2月13日(土)～14日(日)  | イエスよ、私を忘れないください | 山内十束師(ご受難会) |

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院  
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 捧げるということ

あなたがたがパンを与えなさい

2015年度 第3回 召命黙想会

日時： 11月21日 (土) 15:00 ~

22日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2015年11月15日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 祈り：講話と実践

## 沈黙の内に神を求めて —観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00  
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

11月12日（木）『靈魂の城』第七の住居・第二章  
12月10日（木）『靈魂の城』第七の住居・第三章

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。  
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会日本管区長）



### <<特別黙想会>>

日時：12月5日（土）5時受付～6日（日）午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「イエスの聖テレジアとともに祈る」

指導司祭：九里彰神父

申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

# 祈りと記念の手帖



わたしと神、わたしと大切な人々との出会いを記し、日々祈り、記念するための永年手帖

—推薦の言葉— Br.田中直 (聖パウロ修道会)

祈りによってさまざまな垣根が取り払われ、天と地が結びつき、人と人とが支え合うことができます。この手帖によって祈りの輪が広がっていくことを願っています。



\* Br.田中は、日々の出会いを記念した祈りを実践していらっしゃいます。

## 〔収録内容〕

- 九里彰「記念し、祈る」
- 曜日のないダイアリー：誕生日、結婚記念日、受洗日、命日などを自由に記入できます
- 年ごとの記録：10周年、金祝などの覚えに役立ちます
- 絵画（カラー）と解説：祈りに向かう心、空間をつくるために
- 祈りと祈りのヒント（カルメル修道会監修）：主の祈り、聖人たちの祈り、年始・年末の祈り（高橋重幸・晴佐久昌英）や「祈りの小道」、聖句、詩などを豊富に収録



オリエンズ宗教研究所 編  
ISBN 978-4-87232-085-5 C0016  
A5判・200頁・本体価格1600円+税

全国のキリスト教書店、Amazon、オリエンズ宗教研究所HPをご利用ください。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

**New!** 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

先日、会議のために金沢へ出向いた。会議終了後、名古屋に帰る前に、近くの病院にいる 91 歳のイタリア人司祭をお見舞いした。看護師さんが、今、トイレ中ですよと言ったので、廊下で少し待ったが、なかなか終わりそうもない。のぞくと、ベッドの横に簡易トイレがあり、その上に座っている。近づくと、何と、左手にロザリオを持ち、ロザリオを唱えながら用を足していたのである。

認知症もだいぶ進んでおり、時間も場所も分からなくなっている。果たして訪問客がだれであるのか認知できたのか、はなはだ心もとない。

それにしても、ロザリオをしながら、トイレとは…。新聞を読みながらというのは、よく聞く話だが、これには脱帽。長い人生、いろいろあったと思われるが、祈りを捨てないその姿は、さすが、カルメル会士であった。

(P.九里)



### 製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「11月号」製本日 10月27日(火) 上野毛教会信徒会館ホール1階  
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171